狛江の将来像を展望する糧として活用していただきたい。

Ａ５判、1,019㌻に及ぶ大冊『新狛江市史　通史編』がこのほど刊行された。９年間にわたって市史の刊行に携わっている狛江市史編さん委員長の森安彦さん（86）に話を聞いた。

市史編さん事業に関わるきっかけ■元和泉に残されてきた石井家の古い建物が、平成21年度から4年がかりで昭和記念公園のこもれびの里に移築復元されましたが、その時に大量の古文書が発見されました。市民の有志で調査団を組織し整理調査を行うことになり、その調査団長を務めた縁で、新しい狛江市史の編さん事業に関わることになりました。石井家の古文書の発見は、市史編さん事業に着手するきっかけの一つにもなりました。

『新狛江市史　通史編』の編さんで留意した点■地元に残されてきた具体的な史料に基づく内容とすることを目指しました。また、写真や図などを活用しながら分かりやすく、市民が手に取りやすいものになるよう心がけました。『通史編』は24人に及ぶ各専門分野の先生たちが執筆しただけではなく、40人以上の調査員が調査にあたっています。なんといっても、多くの市民の皆さんに調査に協力していただいたり、貴重な史料を提供していただいた賜物と言えるものになりました。

前回の『狛江市史』と比べて■『狛江市史』が刊行されてから既に35年以上が経過し、市内の自然環境や景観、人々の生活のあり方も大きく変化しました。そのため、『新狛江市史』では、狛江市が住宅都市として発展してきた過程を振り返ることを目指しました。また、『狛江市史』が刊行された後、遺跡や古墳の発掘調査が進み、江戸時代以降の古文書が新たに発見されるなど、地域の歴史を描く素材が蓄積されてきました。こうした新発見の資料を活用し、改めて狛江の歴史をまとめました。

狛江市は面積が小さく、歩いて市内を一周できるほどコンパクトな町です。そうした特色を生かして、丹念に調査することを心掛けました。市内それぞれの地域の歴史を掘り下げ、時代ごとにきめ細かな叙述を目指しました。

歴史から見えた狛江の特色■狛江は、多摩川や野川、さらには弁財天池といった水資源が豊富で、旧石器時代から人々が生活し始め、縄文・弥生時代の遺跡が数多く残り、「狛江百塚」と呼ばれるように、多くの古墳も残っています。

中世の史料は多くはありませんが、文献には「駒井」や「岩戸」などの地名を確認できます。また、近年では中世の終わり頃の大きな屋敷跡が発掘され、集落が拡大していたことがうかがえます。

狛江市市史編さん委員会
委員長
森（もり）　安（やす）彦（ひこ）さん

江戸時代の狛江はおおむね7カ村からなっていました。村々には幕府代官、大名の彦根藩井伊家、旗本、さらに御家人である伊賀者など、様々な領主がいて、一つの村に複数の領主がいる相給（あいきゅう）村落もありました。また、村々は鷹場組合や寄場（よせば）組合といった数十カ村からなる広域組合に編成され、隣接地域の村々との連携が強化されました。人々は、度重なる多摩川の氾濫に苦しみながらも、村同士の協力や、領主の援助などで、その都度復興し発展してきました。また、多摩川沿岸に玉川碑（万葉歌碑）を建立したり、河原で歌舞伎を興行するなど、文化的な活動も盛んでした。

明治22年には狛江村が成立し、近郊都市として発展します。明治時代後半から大正時代にかけて、現在の狛江三叉路付近にあった銀行を中心とした銀行町が栄え、多摩川沿岸に玉翠園という名所も誕生し、実業家渋沢栄一の協力で玉川碑を再建しました。昭和2年に小田急線が開通し、地域の様子も大きく変化しました。また、数々の戦争を体験するなど、激動の時代に翻弄されながら、人々はたくましく生活していました。

戦後、狛江村は27年に狛江町、45年に狛江市へと移り変わる中で、人口が増加し、農地の減少、学校用地の不足、公害など、数々の問題が生じました。49年には多摩川堤防の決壊といった大きな災害にも見舞われました。これらを解決しながら、狛江は住宅都市として発展してきました。平成に入ると、小田急線の高架複々線化工事や狛江駅北口再開発事業が完成し、現在見られる町の姿が形作られました。

『新狛江市史』を読む意義■狛江には、豊かな自然や古くから伝わる歴史や文化があり、歴史資料が数多く残されています。これまで先人たちの努力によって残されてきた狛江の自然や歴史を、地域の財産として活用しながら、後世に継承していく必要があります。市民の皆さんに本書を読んで地域への理解を深めるきっかけにしていただくとともに、これからの狛江の将来像を展望する糧として活用してほしいです。

市史編さん事業はもう少し続きます。残された資料集の編さんや市史のダイジェスト版の作成等を行っていきますので、市民の皆さんに引き続き協力をお願いしたいと思います。

森安彦さんの横顔＝昭和9年世田谷区太子堂町生まれ。江戸時代に太子堂村の名主を務めた生家には先祖伝来の古文書が伝わり、子どもの頃から歴史を身近に感じる環境に育つ。52年東京教育大学大学院史学専攻博士課程修了。文学博士（東京教育大学）。専門は江戸時代史。45年に信州大学教育学部助教授、56年に同教授。59年に国文学研究資料館史料館教授に転任、平成5年から史料館館長。10年から17年にかけて中央大学文学部教授。現在、国文学研究資料館名誉教授。地方史研究の活動にも力を入れ、都内自治体の文化財保護に関する委員や市史編集委員などを歴任。24年から狛江市市史編さん委員長及び市史編集専門委員長を務める。著書に『幕藩制国家の基礎構造－村落構造の展開と農民闘争－』（吉川弘文館、昭和56年）、『古文書が語る近世村人の一生』（平凡社、平成6年）、『古文書を読もう』（講談社、15年）、『古文書からのメッセージ』（三省堂、17年）。他に共著、論文等多数。杉並区在住。

Shop & Service Guide　いらっしゃいませ　…5

プロハンズ アイヅヤ

プロハンズ　アイヅヤ（会津屋建興株式会社）は建築の職人が使う工具や資材、作業用品などを販売するほか、エクステリアの設置工事なども手がけている。

品質の良い品揃えがモットーの同店にはクギやパイプなどの金物、ロープ、シート、接着剤、カッター、電動工具、地下足袋や安全靴など約8,000点が用途別に棚に並べられている。建築現場に合ったサイズがメーカーにない場合は、注文に応じて加工を行っており、職人に重宝がられている。また、本格的な道具や建材が入手できるため、日曜大工マニアにも人気がある。

同社は福島県会津地方出身の五十嵐忠四郎さん（故人）が万年塀の製造・販売を手がける会社として創業、昭和33年に現在の場所に移転した。45年に株式会社となり、建築関連の職人向けに建築金物と大工道具を販売、52年には「狛江日曜大工センター」を始めた。平成３年に松原通りの拡張に伴い社屋を建て替え、プロと一般向けを統合し、現在の店名に変更した。

プロ向けの道具や資材約8,000点
豊富な商品知識や情報も提供

プロ向けの道具や資材がぎっしりと並ぶ店内

☎3489-1621　和泉本町3-32-9　営業＝午前7時～午後7時　夏休み（8月12日～15日）・正月休み

社長の太一さん（62）は会社員だったが、59年に父の忠四郎さんが病で倒れたため、家業を継いだ。プロ用の道具や建材は種類も多様で用途や使い方がわからないものが多いため、最初は商品知識を得るのに苦労したが、カタログや説明書を読み、実際に自分で使って特徴を覚えたという。ただ、大工、水道、内装など工事によって使う道具が違い、新しい道具や資材が次々と出るため、来店する職人から常に新しい商品知識を仕入れる必要があるという。そのため、店内に職人が休めるコーナーを設け、お茶と菓子のサービスを行って気軽に情報交換ができるようにしている。そうして仕入れた知識は日曜大工が趣味の人にも提供、道具のメンテナンスやアフターケアにも対応して喜ばれている。

五十嵐さん

商品販売以外にも、ベランダ、車庫、フェンスなどのエクステリア工事のほか、手すりの取り付けなど家のバリアフリーの工事も手がけ、高齢者に好評だ。

職人に合わせて、午前７時から午後７時まで営業、休みも盆と正月にするなどの配慮をしている。五十嵐さんは「お客さんとのコミュニケーションを大切にしているので、気軽に相談してください」と話している。

市史編さん刊行物

- ◆新狛江市史　通史編（写真）　2,220円
- ◆新狛江市史　資料編　近世１　2,460円
- ◆新狛江市史　資料編　近世２　2,460円
- ◆新狛江市史　資料編　近世３　2,150円
- ◆新狛江市史　資料編　近現代１　3,000円
- ◆新狛江市史　資料編　近現代２　2,630円
- ◆新狛江市史　資料編　近現代３　1,920円
- ◆新狛江市史　資料編　近現代４　1,980円
- ◆新狛江市史　資料編　絵図・地図（DVD付き）　5,240円
- ◆新狛江市史民俗調査報告書１　猪方の民俗　580円
- ◆新狛江市史民俗調査報告書２　駒井の民俗　840円
- ◆新狛江市史民俗調査報告書３　岩戸の民俗　860円
- ◆新狛江市史民俗調査報告書４　小足立の民俗　830円
- ◆新狛江市史民俗調査報告書５　覚東の民俗　810円
- ◆新狛江市史民俗調査報告書６　和泉の民俗　1,410円
- ◆新狛江市史関連考古学調査報告書１　狛江の板碑　660円
- ◆新狛江市史関連考古学調査報告書２　泉龍寺の位牌　800円
- ◆市史研究　狛江　第4号～第7号　360円～480円

●市役所２階市史編さん室で頒布中。価格はいずれも税込み。